



# 鹿児島県 農地バンクだより

～活かそう農地, 託そう未来～

第7号(令和2年度第2号)

令和3年3月4日発行

公益財団法人鹿児島県地域振興公社

(鹿児島県農地バンク)

TEL099-223-0223(農地部直通)



## ～農地バンクを活用した農地集積・集約化の取組事例～

地元の農業者や行政(県・市町村), 農業委員会などが連携・協力し, 農地バンクを活用して農地の集積・集約化に取り組まれた事例を紹介します。

### 1 地域の取組事例

#### にしらさわ 枕崎市西白沢地区

農業委員会

新規就農

##### 【地区の概要】

- 枕崎市別府地区の南東部に位置し, 南薩畑地かんがいの水が確保された広大な畑地では, かんしょ, キャベツ等露地野菜, 茶の生産が盛んである。

##### 【取組のポイント】

- R2年2月開催の人・農地プランの話し合いでは, 地元農業委員が会を進行し, その後も個別に農家を訪問するなど, 事業の啓発等に奔走した。
- 全体会議ができない中, 市長名による事業取組の申込文書を地区のリーダー及び環境保全会役員が配布して, 取りまとめを担った。

##### 【バンク活用後の地域農業の変化】

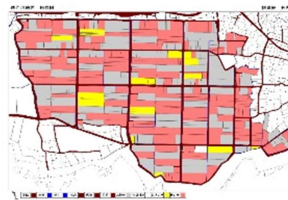
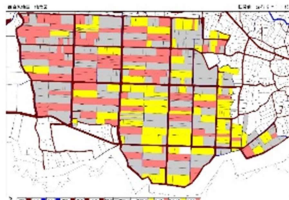
- かんしょ農家を中心とした担い手への集積が加速し, 新規就農者の規模拡大にもつながった。当地区の取組が隣接地区に波及し, 集積活動の拡大が期待される。

##### 【R2年度取組の成果】

地区内農地面積 46.6ha  
バンク貸付面積 26.2ha  
バンク活用率 56%

(活用前)

(活用後)



担い手 非担い手

#### ななむら 曾於市財部町七村地区

機構関連  
農地整備事業

基盤整備・農地集積・  
営農の振興

##### 【地区の概要】

- 曾於市の北部に位置し, 集落の上段に畑地, 下段に水田が広がっている地域。
- 水田では水稲, 畑地ではかんしょが主として栽培。
- 水田は約50年前にほ場整備がなされたが, 1区画が狭く, 高低差もあり, 効率的な営農を展開するには大区画化と汎用化が課題。

##### 【取組のポイント】

- 地元農業委員がリーダーとなり農地集積準備委員会で話し合いを積み重ねてきた。令和元年にほ場整備事業の推進と地域農業の活性化を一体的に行う「七村の営農を考える会」が設立され, 事業計画や今後の営農について検討。
- 関係機関・団体連絡会(市, 振興局(普及, 農村整備), 土改連, 農地バンク)を設置し, 毎月, 課題等の検討や情報交換を行いながら「考える会」へ支援を実施。

##### 【バンク活用後の地域農業の変化】

- 農地中間管理機構関連農地整備事業に着工を申請。完工後は, 担い手への農地の集団化が図られ, 収益性の高い農業の展開が期待される。

##### 【R2年度取組の成果】

地区内水田面積 32ha  
バンク貸付面積 31ha  
バンク活用率 98%



「七村の営農を考える会」設立総会

# 大島郡和泊町出花地区

農業委員会

担い手(地域内)

## 【地区の概要】

- ・沖永良部島の和泊町北部に位置し、世帯数約110戸の農村地帯。
- ・サトウキビ・ばれいしょ・花き類のほか畜産(生産牛)も盛ん。
- ・担い手は確保されているが、経営農地が不足。

## 【取組のポイント】

- ・機構集積協力金制度をきっかけに、地域説明会を開催。
- ・地域担当農業委員及び最適化推進員がこまめに農家を説得。
- ・農地バンクとの契約書類も農業委員・推進委員が分担して戸別訪問し、令和元年度に約90haの農地集積が図られた。

## 【バンク活用後の地域農業の変化】

- ・地区内の全農地の活用状況が把握でき、一部の遊休農地の解消が図られた。
- ・これまで、地縁や血縁による「書面契約のない貸借」が行われてきたが、農地バンクへの貸出により担い手農家への農地集約が一層進むことが期待される。

## 【R元年度取組の成果】

地区内農地面積	125ha
バンク貸付面積	90ha
バンク活用率	72%



川畑善美農委会長代理による  
事業説明

## 2 県域の取組事例

### 農業委員会と連携した 農地中間管理事業の推進

令和2年度は、県内30市町村農業委員会が委員の改選を迎え、農地バンクではこれまで6委員会(南さつま市、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町)の研修会に出席しました。



南さつま市農委会研修会

研修会では、農地中間管理事業の重点区域やモデル地区での取組、総点検活動結果の共有、人・農地プランなどと一体となった事業推進について説明及び情報提供を行いました。

また、利用状況調査による中間管理権設定農地の確認や、合意解約申出農地における次期耕作者との調整などへの協力をお願いしました。

参加した委員からは「研修内容を人・農地プラン実質化や農地集積の話合いにつなげたい」などといった声が寄せられました。

農地利用の最適化に向けて、農地中間管理



天城町農委会研修会

事業の活用を最優先に取り組んでいただくため、引き続き農業委員会の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 3 ユニークな取組事例

### 耕作者不在農地を蜜源に再生 ～はちみつ農家の挑戦～

枕崎市田布川地区の一角に、見頃を間近に控えた菜の花畑が広がります。ここはかつて耕作者がおらず、荒廃化が進んでいました。



復元作業中の現場

「地元の方々や行政、農業委員会の協力のおかげで、荒廃農地を蜜源に再生できた」と話すのは、南九州市知覧町で養蜂を営むはちみつ西垂水養蜂園株式会社の西垂水栄作代表取締役です。

現在、田布川地区の経営農地約12haのうち約1.3haが農地中間管理事業を通して貸借され、自力施工で農地復元に取り組みられました。大規模農家のリタイアや、さつまいも基腐病の影響で「農地を借りてほしい」との相談も多く、同法人では今後も農地バンクを活用し、規模拡大を図っていく予定です。

「ここを満開の菜の花が咲き誇る観光スポットにしたい」と夢を語る西垂水代表の挑戦は、これからも続きます。



菜の花の満開を待ちわびる  
西垂水代表